

## 沖縄語の学習のための各書法の比較と評価（6枚）

2007年7月31日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語の散文の各種の表し方を類型で比較して、学習に用いる際の適否を検討してみます。学問、研究、文学のための文については、別とします。また、過去の琉歌などの韻文や、著しい言文不一致文は取り上げません。以下、言文一致指向の様々な文例について、その特徴を述べます。

**重要なことは、漢字を用いずに仮名だけで全ての音が表現できることです。**漢字は必要に応じて言葉を選んで仮名と入れ替えるものです。漢字に替わった仮名は振り仮名になります。

**書法で重要なのは筆記の利便です。手書きが困難または不可能な書法や、規範性のない書法は学習には適しません。**

仮名は平仮名でも片仮名でも構いませんが、以下では平仮名で説明します。

### 文例の目次

#### （文の原型）

例 1、 仮名だけ、句読点なし、「ー」を使用

例 2、 仮名だけ、句読点なし、「ー」を不使用、及びその変形

#### （文字列の整形）

例 3、 仮名だけ、句読点なし、字空け、「ー」を使用

例 4、 仮名だけ、句読点なし、字空け、「ー」を不使用、及びその変形

例 5、 仮名だけ、句読点あり、「ー」を使用

例 6、 仮名だけ、句読点あり、「ー」を不使用、及びその変形

#### （漢字交じりの文、全て句読点あり、全ての漢字に振り仮名）

例 7、 仮名と漢字、「ー」を使用

例 8、 仮名と漢字、「ー」を不使用、及びその変形

例 9、 種々混用の書き方

付：学習者に対する書法の原則

以下の書き方のどの例も、沖縄語が出来る人には理解できます。評価の視点は、初学者に教える場合の適否です。

## (文の原型)

例1、仮名だけ、句読点なし、「ー」を使用

- a. ちゅーやくりからうちなぬんかしばなしうんぬきやびーん
- b. ゆろーとうえーあっかん      c. くわーしえーじょーとうーやん

評価：沖縄語が出来る人の読み書きにはよいでしょう。しかし、子供や初学者にとっては、文字列が長くなると、言葉の切れ目が不明確になり“ぎなた読み”いわゆる弁慶読みをきたす嫌いがあります。そのため、**仮名だけで句読点もなく、隙間なく詰まった文字列の文は、学習には適しません。**

例2、仮名だけ、句読点なし、「ー」を不使用、及びその変形

- a. ちゅうやくりからうちなあぬんかしばなしうんぬきやびいん
- b. ゆろおとうええあっかん      c. くわあしええじょおとうやん

評価：沖縄語が出来る人の読み書きにはよいでしょう。しかし、子供や初学者にとっては、文字列が長くなると、言葉の切れ目が不明確になり、弁慶読みをきたす嫌いが、例1の場合よりあります。そのため、**仮名だけで句読点もなく、隙間なく詰まった文字列の文は、学習には適しません。**

例2の書き方には色々な変形があります。例えば、

共通語の長音の書き方に従って、

- b1. ゆろうとうええあっかん      c1. くわあしええじょうとうやん
- という書き方があります。

評価：ここでは「ゆろう」と「じょう」の「う」は[o]と読むべきで、言文不一致となり、「とうやん」の「う」は[u]と読み、言文一致です。これはかなり紛らわしく、気を使います。印刷するとき誤植を起こし易くなります。学習には適しません。

次のように、例2のbに対して、

- b2. ゆろおとういえあっかん
- と書くこともできます。

評価：一理あるとしても子供や初学者に教えるには早すぎると思います。

助詞が前の語の語尾と融合する部分を小書きし、

- b3. ゆろおとういえあっかん
- という書き方もあります。

評価：活字ではよいとしても、手書きでは小書き部分が大きく書かれ、例2のb2のように書かれる傾向があり、筆記には適しません。

結局、仮名だけで句読点もなく、隙間なく詰まった文字列の文は、学習用には不向きとなりますが、「字=音」となっていて、**文章表現の原点**ではあります。

## (文字列の整形)

例3、仮名だけ、句読点なし、字空格、「ー」を使用

- a. ちゅーや くりから うちなーぬ にかしばなし うんぬきやびーん  
b. ゆろー とうえーあっかん c. くわーしえー じょーとうーやん

評価：このように書かれてある場合は、言葉の切れ目がかなり明確で、子供や初学者が読むにはよいでしょう。しかし、一般に手書きすると、字間の一字分の空白が正しく保たれない心配があります。脱字と間違われる心配もあります。手書きで一字分の空白を確保する学習では、マス目の用紙を準備する必要があります。

例4、仮名だけ、句読点なし、字空格、「ー」を不使用、及びその変形

- a. ちゅうや くりから うちなあぬ にかしばなし うんぬきやびいん  
b. ゆろお とうええあっかん c. くわあしええ じょおとうやん

評価：このように書かれてある場合は、言葉の切れ目がかなり明確で、子供や初学者が読むにはよいでしょう。しかし、一般に手書きすると、字間の一字分の空白が正しく保たれない心配があります。脱字と間違われる心配もあります。手書きで一字分の空白を確保する学習では、マス目の用紙を準備する必要があります。

例4の書き方には色々な変形があります。例えば、

共通語の長音の書き方に従って、

- b1. ゆろう とうええあっかん c1. くわあしええ じょうとうやん  
という書き方があります。

評価：ここでは「ゆろう」と「じょう」の「う」は[o]と読むべきで、言文不一致となり、「とう」の「う」は[u]と読み、言文一致です。これはかなり紛らわしく、気を使います。印刷するとき誤植を起こし易くなります。

次のように、例4のbに対して、

- b2. ゆろお とういえあっかん  
と書くことも出来ます。

評価：一理あるとしても子供や初学者に教えるには早すぎると思います。

助詞が前の語の語尾と融合する部分を小書きし、

- b3. ゆろお とういえあっかん  
という書き方もあります。

評価：活字ではよいとしても、手書きでは小書き部分が大きく書かれ、例4のb2のように書かれる傾向があり、筆記には適しません。

句読点がある文では、文の途中に適宜「、」、文尾に「。」をつけます。「、」は多からず

少なからずとし、書き手が思う位置につけます。

例 5、仮名だけ、句読点あり、「ー」を使用

- a. ちゅーや、くりからうちなーぬんかしばなし、うんぬきやびーん。
- b. ゆろー、とぅえーあっかん。      c. くわーしえー、じょーとぅーやん。

評価：子供や初学者はもちろん、出来る人にもよいでしょう。「、」によって言葉の切れ目がある程度明確にはなっていますが、文字列が長くなると、弁慶読みをきたす嫌いが残るほか、同音異義の言葉があると解釈に迷うことがあります。

例 6、仮名だけ、句読点あり、「ー」を不使用、及びその変形

- a. ちゅうや、くりからうちなあぬんかしばなし、うんぬきやびいん。
- b. ゆろお、とぅええあっかん。      c. くわあしええ、じょおとぅうやん。

評価：子供や初学者はもちろん、出来る人にもよいでしょう。「、」によって言葉の切れ目がある程度明確にはなっていますが、文字列が長くなると、弁慶読みをきたす嫌いが、例 5 よりもあるほか、同音異義の言葉があると解釈に迷うことがあります。

例 6 の書き方には色々な変形があります。例えば、

共通語の長音の書き方に従って、

- b1. ゆろう、とぅええあっかん。      c1. くわあしええ、じょうとぅうやん。
- という書き方があります。

評価：ここでは「ゆろう」と「じょう」の「う」は[o]と読むべきで、言文不一致となり、「とぅう」の「う」は[u]と読み、言文一致です。これはかなり紛らわしく、気を使います。印刷するとき誤植を起こし易くなります。

次のように、例 6 の b に対して、

- b2. ゆろお、とぅいえあっかん。
- と書くこともできます。

評価：一理あるとしても子供や初学者に教えるには早すぎると思います。

助詞が前の語の語尾と融合する部分を小書きし、

- b3. ゆろお、とぅいえあっかん。
- という書き方もあります。

評価：活字ではよいとしても、手書きでは小書き部分が大きく書かれ、例 6 の b2 のように書かれる傾向があり、筆記には適しません。

## (漢字交じりの文、全て句読点あり、全ての漢字に振り仮名)

漢字の混ぜ方

上記の例 5 , 6 の文に漢字を混ぜてみます。まず、漢字に置き換えたい言葉を選びます(下線)。例 5 に対しては、

- a. ちゅーや、くりからうちなぬんかしばなし、うんぬきやびーん。  
 b. ゆるー、とうえーあっかん。 c. くわーしえー、じょーとうーやん。

そして下線の仮名の位置に漢字を置き、その部分の仮名を振り仮名に回します。語尾の音が変わっても同じ漢字とします。仮名送りは共通語の方法に揃えます。漢字は共通語と同じ読みであっても、仮名を振ります。例7のようになります。

例7、仮名と漢字、「ー」を使用

- a. <sup>ちゅー</sup>今日や、<sup>うちなぬんかしばなし</sup>くりから沖縄ぬ昔話、<sup>うんぬきやびーん</sup>うんぬきやびーん。  
 b. <sup>ゆるー</sup>夜ー、<sup>とうえーあっ</sup>鳥ー歩かん。 c. <sup>くわーしえー</sup>菓子ー、<sup>じょーとうー</sup>上等やん。

この場合、漢字を取り去ったときに、元の仮名だけの文にならなければなりません。漢字への置き換えは選択ですから、漢字にしたくない言葉は仮名のままで構いません。以下も同じです。

例6に対しては、

- a. ちゅうや、くりからうちなあぬんかしばなし、うんぬきやびいん。  
 b. ゆるお、とうええあっかん。 c. くわあしええ、じょおとううやん。

例8、仮名と漢字、「ー」を不使用、及びその変形

- a. <sup>ちゅう</sup>今日や、<sup>うちなあぬんかしばなし</sup>くりから沖縄ぬ昔話、<sup>うんぬきやびいん</sup>うんぬきやびいん。  
 b. <sup>ゆる</sup>夜お、<sup>とうえーあっ</sup>鳥え歩かん。 c. <sup>くわあしえ</sup>菓子え、<sup>じょおとうう</sup>上等やん。

これには変形があり、紛らわしい点もあります。

共通語の書法を混用して、[o]列の長音部分を「う」と書き、

- b1. <sup>ゆる</sup>夜う、<sup>とうえーあっ</sup>鳥え歩かん。 c1. <sup>くわあしえ</sup>菓子え、<sup>じょうとうう</sup>上等やん。

とすると、「<sup>ゆる</sup>夜う」の「う」と、「じょうとうう」の初めの「う」は[o]と発音するので、言文不一致になります。印刷するときには誤植を起こし易くなります。

例8のbに対して、

- b2. <sup>ゆる</sup>夜お、<sup>とぅいーあっ</sup>鳥え歩かん。

と書くのは、一理あるとしても進んだ段階の書き方だと思います。助詞が前の語の語尾と融合する部分を小書きし、

b3. 夜<sup>ゆる</sup>お、<sup>とぅい</sup>鳥<sup>あっ</sup>え歩<sup>かん</sup>かん。

と書くのは、活字ではよいとしても、手書きでは小書き部分が大きく書かれ、例8のb2のように書かれる傾向があり、筆記には適しません。

評価：例7a、b、c、および例8a、b、cは「一」を使うか使わないかの違いです。筆者は例7の書き方が明解と考えています。

### 例9、種々混用の書き方

なま わらび  
今<sup>ぬ</sup>童<sup>ン</sup>チャアや、親<sup>ぬ</sup>事<sup>お</sup>あ<sup>ん</sup>すか<sup>かん</sup>感謝<sup>さい</sup>思<sup>う</sup>出<sup>じ</sup>ゃ<sup>ち</sup>ゃえ<sup>い</sup>、<sup>ん</sup>音<sup>かし</sup>

ぬさこ<sup>う</sup>さん<sup>ね</sup>エ<sup>さ</sup>び<sup>い</sup>ん。私<sup>だ</sup>ち<sup>あ</sup>時<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>ね<sup>え</sup>、親<sup>と</sup>う<sup>こ</sup>ぬ<sup>じ</sup>ょう<sup>え</sup>情<sup>あ</sup>い<sup>っ</sup>ぺ<sup>え</sup>、<sup>しん</sup>銭

ぬ<sup>あ</sup>ん<sup>無</sup>ぬ<sup>ん</sup>か<sup>え</sup>係<sup>わ</sup>え<sup>無</sup>ん、・・・

評価：この文の書き手は書き方の定見をお持ちでないようですが、音は保たれ、沖縄語を知る人には意味も解ります。しかし、初学者に書き方を教える教材としては規範性がなく、教える側も教わる側も困ると思います。

### 付：学習者に対する書法の原則

冒頭で強調したことを以下に整理します。

#### 1、筆活等価則

文字は手で書くことと活字で表すことは、同じ効用でなければなりません。

活字では表せるがその通りに手書きできないような書法は、適切ではありません。

#### 2、漢字選択の規範性

一つの言葉を漢字で表すとき、誰も同じ漢字を選ぶことです。例えば「**ばす**」に漢字を当てるのに、現在の文献に見られるのは、「場所、場、所、折、機会、頃、時、際」など、どれも「ばす」と読ませています。この中で「**場所**」は音韻も合い、**規範性**があつて**学習に向いています**が、その他は規範性がなく、学習者に教えるには適しません。ある先生は「**折**」と教え、ある先生は「**頃**」と教え、ある先生は「**時**」と教え、ある先生は思いついた共通語の漢字を書くように教えるなどでは、学習者が困ります。

(以上)

照会先 1870002 東京都小平市花小金井 2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp